

公益財団法人祇園祭山鉾連合会理事長ごあいさつ



公益財団法人祇園祭山鉾連合会
理事長 岸本吉博

今年も例年通り祇園祭の時節がやって参りました。

一昨年に 150 年ぶりの復興が実現した大船鉾が、後祭巡行に参加して早や 3 回目のお祭となりますが、復興を果たしたとは云え、完成に至るまでにはまだまだ時間と大変な努力が必要です。

その様な最中にまた嬉しいお知らせが御座います。

それはおよ 190 年前、1826 年(文政 9 年)の激しい夕立や 1864 (元治元年)の禁門の変による大火で、大きな損傷を受け、休み山となっていた鷹山(曳山)が町内の

の気運が高まり、いよいよ復興に向けて第一歩を踏み出した事であります。お囃子は数年前から有志が集まり、練習を始めていたのですが、今年 1 月、その母体となる鷹山保存会が京都府の認定を受け、公益財団法人鷹山保存会として発足しました。

5 月からは本格的な「山」復興の為、保存会の方々と祇園祭山鉾連合会が調査委員会を立ち上げ、学識経験者や各種の専門家を招き、学術的・美術的考証を踏まえ、あるべき姿で巡行に参加できるよう進めて参りたいと思っております。それにつけても、祇園祭の歴史は幾多の苦難に遭いながらも、町衆の力で必ず復興を遂げて参りました。

この力強さこそが現在の日本のあらゆる苦難の場面で復興の底力となっている所以だと思っております。

引き続き皆様のご支援を宜しくお願い致します。